

「子どもたちよ！明るく、そして力強く前へ！」

～柔道家 杉本美香さん&佐藤愛子さんに学ぶ～

1 趣 旨

- ・世界を舞台に活躍する 2 人の柔道家の生き方や考え方に触れることで、夢や希望をもつことの大切さや困難に立ち向かおうとする人間の強さについて考える子どもを育てる。

2 事業の概要

(1) 期 日 平成 29 年 2 月 11 日 (土) ～ 2 月 12 日 (日)

(2) 参加者 全日程参加者 90 名 (柔道教室のみの部分参加者 8 名) ※募集 100 名

(3) 研修内容及び講師

1 日目	○開講式・OR ○柔道教室① 講師：コマツ女子柔道部 杉本美香 氏 ○講演会「柔道から学んだこと」 講師：コマツ女子柔道部 杉本美香 氏 講師：東京女子体育大学 佐藤愛子 氏 (※悪天候のため不参加)
2 日目	○柔道教室② 講師：コマツ女子柔道部 杉本美香 氏 講師：東京女子体育大学 佐藤愛子 氏 (※悪天候のため不参加) ○閉講式

3 事業の内容

(1) 事業の特色

2020 年東京オリンピックを控え、スポーツに対する興味・関心は、これまで以上に高まってきている。本事業は世界の第一線で活躍しているアスリートを招聘し、青少年に夢や希望を持って努力することの大切さを伝えていくことを目的としている。本年度は当施設に文武伝承館があることから、利用頻度も高い「柔道」にスポットを当てた。事業の企画・運営に当たっては、島根県柔道連盟と連携を図り、講師の選定から当日の運営に至るまで積極的なご協力をいただいた。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

第一線で活躍しておられる方に直接指導を受けることのできる貴重な機会であるため、柔道の指導を受けることのできる柔道教室を 2 コマ設定した。指導場面では講師のサポートとして、島根県柔道連盟の方や団体指導者にも加わっていただき、より参加者の課題・要望に対応できるようにした。また、参加者に柔道の技術だけでなく競技に取り組む心構えや人としての生き方にも触れてもらえるように、講演会の時間も設定した。「堅苦しくない雰囲気の中で、参加者の悩み・

思いに応えたい」という講師の意向を受け、講演会も一方的に話を聞くだけでなく、参加者の質問に対応していただくスタイルをとった。

4 成果と課題

《成 果》

- ・ 最初は少し緊張気味だった参加者も、講師の杉本氏の明るいキャラクターに引き込まれて、笑顔で練習に取り組み、掛け声も次第に大きくなっていった。また、袖をつかむ動作についての指導場面においても杉本氏から「腕時計を見るように腕を動かしてみて！」と具体的に指導してもらったため、柔道を始めて間もない参加者でも、すぐに理解し、実践することができた。
- ・ 講演会では杉本氏に柔道との出会いからオリンピック等の大会で活躍した現役選手時代、そして指導者として柔道に携わっている現在までを語っていただいた。「楽しい時には誰でも笑顔。でもね、私はしんどい時、つらい時こそ笑顔だと思う。」「いろんな人に相談したりアドバイスをもらったりするのはいい。でも、最終決断は自分で行ってほしい。」等の言葉が参加者の胸に響いたようである。質問コーナーでは、参加者から設定時間を超えるほどの多くの質問があった。度重なる怪我に悩んでいる参加者に対しては「私も怪我ばかりしてきた。怪我は本気で何かに立ち向かっている証。怪我をしたときは思いっきり落ち込んでいい。そして、どん底までいったら、またはい上がっていけばいい。」というアドバイスがあった。世界の第一線で活躍してこられた方のメンタリティーの在り方を学ぶことができた。また、この質問タイムで出された「体幹の鍛え方を教えてほしい。」という要望を受けて、2日目の柔道教室では体幹を鍛えるためのトレーニング方法を指導していただく等、参加者のニーズに応じた研修内容とすることができた。
- ・ 早い段階から島根県柔道連盟と連携を図ったことにより、講師との連絡調整や広報の進め方（島根県柔道連盟のネットワークを活用した広報）等において、これまでとは異なる進め方を取り入れることができた。また、畳や柔道専用タイマー等の施設・設備面の課題について、実際にそれを使っている柔道連盟の方から生の声を聞かせてもらうことができた。今後の設備改善につなげていきたい。

《課 題》

- ・ 記録的な寒波の影響で、予定していた講師のうち1名は来ていただくことができなかった。もう1名の講師の方や島根県柔道連盟・各団体の指導者のサポートにより、予定通りの日程で事業を進めることができたが、講師を迎える事業の際には不測の事態に対する備えをさらに慎重に進めておく必要がある。また、柔道のように室内を使った活動であっても、今回のように悪天候のため警報が出て、学校によっては部活動への参加に制限が出るケースもあるので、開催時期も検討していく必要がある。



(担当：企画指導専門職 大隅 雅浩)